

大麦の生育が早まっています 適期の防除と実肥施用で品質・収量確保！

1. 気象および麦の生育状況

昨年以上の記録的な暖冬となり、今後も高温で経過した場合、出穂期は平年より1週間程度早まることが見込まれます。適期を逃さず、防除と実肥施用を実施しましょう。

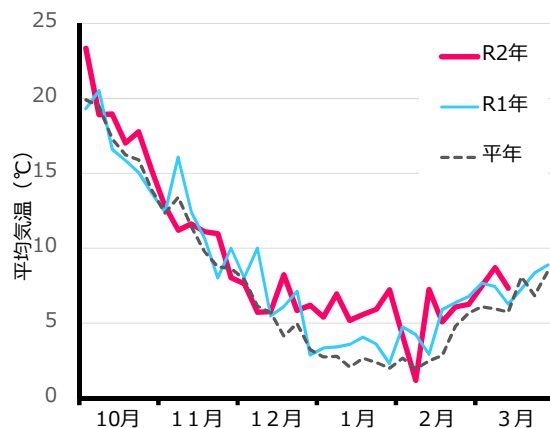


図 麦作期間の平均気温

2. 品質・収量確保に向けた管理

(1) 赤かび病防除

大麦は小麦より赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行いましょう。1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後です。気温の経過により、出穂期～穂揃期～開花期までの日数が長くなることがあります。開花期の見極めは難しいので、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょう。

【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
10月中～下旬	4月5日前後	4月10～15日	4月17～22日
11月上旬～	4月10日前後	4月15～20日	4月22～27日

(2) 実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。特に、麦茶用には高タンパクの大麦が求められます。今年は暖冬の影響で、莖数が多く、肥料不足が懸念されるため、出穂10日後に実肥を施用しましょう。

【実肥量(窒素成分)の目安】

分施肥系または実肥成分を含まない一発肥料の場合	4kg/10a
実肥成分を含む一発肥料(大麦専用 MFS 等)の場合	2kg/10a